

令和6年11月1日

報道機関 各位

富山大学附属病院が富山県内の医療機関として初めて、 光の作用でがん細胞を破壊する「光免疫療法」を実施

富山大学附属病院（病院長：林 篤志）は、令和6年10月30日に、耳鼻咽喉科頭頸部外科において光免疫療法を実施しました。

光免疫療法は、頭頸部がんなどの患者に対し、特殊な薬剤を投与した後、患部にレーザー光を照射してがん細胞を破壊する治療法で、「第5のがん治療法」として期待されており、富山県内の医療機関では初めての実施となります。

つきましては、次のとおり記者会見を行いますので、取材・報道方よろしくお願いたします。

■ 記者会見

- 日時 令和6年11月5日（火）13:30～（30分程度）（開始30分前より受付）
記者会見、報道機関を対象とした質疑応答
- 場所 富山大学杉谷キャンパス 富山大学附属病院
管理棟3階 大会議室（富山市杉谷2630）
- 出席者 林 篤志（富山大学附属病院長）
森田 由香（富山大学附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授）
阿部 秀晴（同科 助教）

■ 概要（ポイント）

頭頸部は、顔や首の領域を指し、鼻・副鼻腔、口腔、咽頭・喉頭（のど）、唾液腺、甲状腺などにできるがんを総称し「頭頸部がん」と呼びます。頭頸部がんでは呼吸、嚥下、発声、構音、表情運動、視覚や嗅覚などの感覚の障害、衣服で隠しにくい部位であり整容上の問題など、生活の質（QOL：Quality Of Life）の低下を生じやすい特徴があります。

頭頸部がんの治療は他の多くのがんと同様、外科手術、放射線治療、化学療法が三大治療です。通常は、がんの大きさや進行度合い、患者の年齢などに応じて、これらを組み合わせで治療が行われます。

再発や遠隔の転移の場合には、根治的な再手術や、放射線治療を行う事ができる症例はごく一部に限られ、化学療法や免疫チェックポイント阻害剤が治療の中心となります。免疫チ

チェックポイント阻害剤は、がん細胞が攻撃を避けるために免疫細胞にかけてしまう「ブレーキ」を外す薬です。これは「第4のがん治療」と呼ばれ、2017年にニボルマブ（商品名：オプジーボ）、19年にペムブロリズマブ（商品名：キイトルーダ）が厚生労働省の承認を受けていて、当院でもすでに日常的に多くの患者に投薬が行われ、その恩恵を受けています。

それでも前述のとおり、頭頸部の局所病巣の存在はQOLの低下に直結するため、局所制御を目指した低侵襲な治療法の開発が望まれていました。

そして、「第5のがん治療」の可能性として注目されているのが、頭頸部アルミノックス治療です。この治療法は、頭頸部がん細胞では細胞表面に「EGFR」というたんぱく質を多く出現する性質を利用して、EGFRに特異的に結合する薬剤（セツキシマブ サロタロカン ナトリウム：商品名アキシャルックス）を投与した後、患部にレーザー光を当てることで、がん細胞だけを狙って壊す方法です。

アキシャルックスは、EGFRに特異的に結合する抗体のセツキシマブに、「IR700」という波長690ナノメートルのレーザーを当てると形を変える色素を付けた薬剤です。点滴で投与されたアキシャルックスは、がん細胞表面のEGFRに結合します。そこにレーザー光が当たってIR700が反応することで抗体が形を変え、細胞表面に傷が付きます。その傷から細胞の周囲の水が流れ込み、がん細胞が膨張して破裂する仕組みです。周囲の正常組織の障害を可能な限り抑え、がん細胞を特異的に死滅することができます。

今回富山大学耳鼻咽喉科頭頸部外科では、10月に70代男性の副鼻腔癌の放射線治療後の再発の症例に対して、富山県内の医療機関として初めて本治療を実施しました。

現在本治療を行うのは、耳鼻咽喉科頭頸部外科医の中の頭頸部アルミノックス治療認定医、及び歯科口腔外科の中の口腔がんアルミノックス治療認定医に限定されています。2024年10月末現在、実施可能な施設が全国に約170カ所あり、治療認定医は約400人います。これまで富山県内で実施経験のある施設はなく、富山県内で受けることができる頭頸部がんの治療選択肢が増えたことで、頭頸部がん患者のQOLの向上に貢献できるよう、より一層診療の質の向上に努めてまいります。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学附属病院 病院企画課 日水・合林

TEL：076-434-7101・7019 Email：hosoum@adm.u-toyama.ac.jp